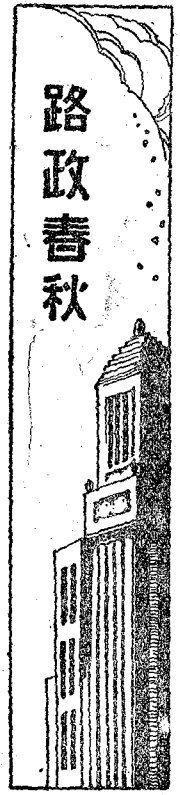


# 路政春秋



## 有馬街道に漂ふ千年の香

歩みを有馬に向けて進み箕の谷に至つて  
 右折すれば武庫郡山田村谷口部落の緑濃き  
 丘陵に屋根の軒下低く垂れ下まつた一軒の  
 茅葺家を見る、之れぞ神戸市觀光課で賞揚  
 する千年の香を漂はせて古き歴史を保有す  
 る特異な建造物である。土壁はなくて間仕  
 切は全く板材を用ゐる梁の上に張られた天井  
 板は甍に編まれた竹で笛や茶さじ等に用ゆ  
 る大同竹、須磨寺東隅に在る竹藪の「青葉  
 の笛」竹と同一のものである。櫻材の敷居  
 はさすがに千年の昔を物語つて滅茶苦茶に  
 蟲の穴だらけである。神社佛閣ならともか

く、榮枯盛衰のはげしき一民家によくも残  
 され原始的な素朴さを偲はせて居るものだ  
 と神戸高工建築科の野地教授は讚嘆の言を  
 放なれた。夫れ程有名な家屋である。歩  
 けば見らるる千年の家。

## 時間の嚴守は新秩序 建設の基礎

Punctuality is the Soul of business

「時間の嚴守は仕事の秘訣なり」とは千古の  
 格言である。宋の學者朱子の勸學歌に「少  
 年老ひ易く學成り難し一寸の光陰輕んすべ  
 からず」と亦同一義に出でたる一句であら  
 う。時間を嚴守せず約束を空に歸すること  
 の多きは吾等の大惡癖である、諸集會に定

### 注 意

本欄は讀者諸君の利用に提供す、治安  
 と風俗とを害し又は人身攻撃に涉らざ  
 る限り奇想天外的の奇稿を望む。一文  
 は四百字位にて取捨は編輯子に一任、  
 原稿は道路の改良編輯部宛のこと。

刻の無視せらるるは日常の茶事で時間を嚴  
 守するものは馬鹿正直者として取扱はるゝ  
 の陋習があるのは事實である。斯くて尙新  
 秩序の建設を企つるは木によつて魚を求む  
 るよりも難事である、頃日京都府での調査  
 によると春一ヶ月の間に各種團體の會合に  
 於て六百七十會の内定刻の開會は二百五十  
 九、遅刻したるも四百十一で半数以上時間  
 を無視したるものである、實に驚くべき現  
 象である。國民精神總動員の運動として先  
 づ此一大惡弊を芥除せられては如何、昔の  
 賢者の言に「惰者よ汝いづれの時まで臥し  
 息むや、いづれの時まで睡りて起ざるや、  
 暫らく臥し、しばらく睡り、手をこまぬき  
 てまたしばらくやすむ」かと。

## 道は近くて長し

佐賀縣廳に六十九歳といふ老巡視がある、十五年間の勤続者であるが實に異色の存在と謂はれて居る。毎朝誰よりも早く登廳し廳の内外各課を隈なく巡視し登退廳と正午と一日に三度鐘を叩いてまた巡視する、一日に三、四回巡視してもたかが縣廳の廊下である。さしての距離でもない、と思ふなかれ勤続年間では五千五百回繰返して居るので其の足跡は相當長い計算となる。又時報の鐘に遅速があると思はると言へば「ナニ一分足らずの差しかない、何にも時間きり／＼に出動しなくとも少しはや目に出て少し遅く歸つたらどうだ」と國民精神總動員運動の元締堀切さん演説の好資料ではあるまいか。

## 國策の線に沿ふて發

## 明のいろ／＼

棉花大不足を告ぐる折柄誰しもがその代

路 政 春 秋

用品として蒲の穂を綿化する工法なきやと考へられるが、何んとしても飛散し易いので見込なしと思はれた處、滋賀縣物産東京幹旋所長澤氏の談によれば大津市膳所町の上島氏外三名が協力し一年半の間、寢食を忘れて研究した結果蒲の穂の脱脂、脱種、防腐、防蟲の方法に成功した、更らに綿になるまでの過程は特殊の裝置に依るベルト式工業により大量に生産し得るに至つた。其の綿化品の特長は永年の使用にも固まらぬ上に保温も頗る良好で生産費も本物の半分を出でない、原料の産地は鳥根、高知、茨城、富山などの水邊に自生し朝鮮、滿洲、支那には無盡藏であるので有望な事業であると、又合成石油が現はれたことも實に驚異的である。夫はフイツシャー式瓦斯合成法による日本最初の人造石油工場である三井石油合成三池工場は大牟田市および駛馬町に跨り、昭和十二年八月起工してから約三ヶ年獨人技師オリングル氏外四名を聘し工場長松本東作氏を始め竹井合成課長、

小泉機械課長等主任となり莫大な經費と幾多の犠牲を拂ひその完成を急ぎつゝあつたが、機械の据付けも大體終了しこの間機械は部分的試験を行つてゐたが、いよ／＼同工場の綜合試験を五月二十八日午後四時から開始したところ成績極めて良好で、二十九日午前十時四十分待望の最初の油の一滴が見事製出され徹宵結果如何と待ちあぐんだ同社首脳部を狂喜せしめたとのことである。

紅 朗

若竹の伸び／＼て鳥居新たなり  
蟲子の寺賣は見えず僧の留守  
菖茂りて教會の光かすかなり  
雨乞空し貯水池日々涸れ／＼に  
山宿に憂國の士の致遣かな